

拓殖大学 vs 東京国際大学

5月3日(金・祝)
11:30K.O.
千葉東総

2勝2敗の拓大と、4連勝の東国大との対戦。拓大は東国大の連勝を止める存在になることができるか。

その拓大は前節、東農大に0-2で敗れた。昨季のように大敗や内容的に完敗という試合があるわけではないが、前節は前の試合で初勝利を挙げた東農大の勢いを受けてしまう形となり、ゴール前でのこぼれ球を拾われての失点、そしてセンターライン付近でのバックパスを奪われての追加点と、ちょっとした隙を突かれた失点が敗戦につながった。攻撃陣が好調になってきている反面、「FWに放り込むような形になってしまい、サイドからの崩しができなかった。相手にとって怖いプレーがなかった」(玉井朗監督)。今節も、首位に立つ東国大の勢いを受ける展開にせず、自分たちの形でゲームを組み立てることができるかどうか。「常に全員でチャレンジャー精神を持って挑戦するつもりでやりたい」(玉井監督)。

その東国大は前節、法大を4-0で撃破。法大の攻撃を0点に抑えただけでなく、FW赤崎俊太(2年)とMF小玉敏之(3年)が各2得点し、いよいよ東国大旋風が本物になってきた。今季、最初の2試合は守備を固めてカウンターを狙う形がはまり東学大、神大という昨季1部組を連破したが、駒大、法大と対戦したこの2試合は

ゲームそのものを支配。強化を始めてまだ5年ということもあり、まずは“相手ボールを奪って速攻につなげる”という武器を磨いてきただけに、一旦ボールを奪うと相手ゴールに迫るスピードは速く、決定力もある。そのボール奪取力の発揮される位置がどんどん高くなり、攻撃にかかる時間が増えている。「後半、守備の連携が遅くなった。早くして攻撃を封じたい」(前田秀樹監督)。

<出場停止>なし
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

拓大		東国大	
24. 谷川	11. 内野	2. 伊東	
4. 菊野	17. 末松	11. 高橋	
1. 大坪	14. 菅原	28. 青島	3. 阿部
	22. 河野	10. 若井	
7. 川崎		21. 今野	
25. 紙谷		26. 佐伯	
	33. 唐澤	23. 赤崎	5. 川島
2. 西本		17. 小玉	
		6. 鹿糠	

神奈川大学 vs 東海大学

5月4日(土・祝)
11:30K.O.
荻野

3勝目を挙げ3位に浮上した神大と、初勝利をマークし最下位を脱出した東海大との対戦。巻き返しを図りたい東海大が、安定した戦いを見せる神大にどう挑むか。

神大は前節、朝鮮大と対戦し2-1で勝利、2連勝とした。MF伊東純也(3年)がスタメンに復帰し、さっそく先制点をマーク。74分にゴール前のセカンドボールを拾われ同点を許したが、その3分後にDF高木利弥(3年)が2試合連続となるCKからの得点で勝ち越し、相手の流れになりそうなところを断ち切る試合巧者ぶりを見せた。ただし、朝鮮大の厳しいプレスに対抗して全体的にファールが多くなり、相手に多くのセットプレーを与えてしまったことは一つの課題だ。高峯弘樹監督は、「1点取られてすぐに追加点を取れたところは強さだと思う」としながらも、「ボールを持ってゴールに向かうプレーが全然なかった」と注文をつけた。守備の安定性はあるが、さらなる攻撃の積極性もほしい。

対する東海大は、開幕から3連敗の悪夢をようやく断ち切り、前節は平国大との接戦を制し3-2で今季初勝利を飾った。なかなか失点が2点を下回らないが、平国大戦は多くのピンチを招いた前半において、FKとPKで2点を奪えたことが大きなアドバンテージとなった。23

分、30分に得点を重ね、後半に入り50分に1点を許したが57分に追加点。残り時間の相手の猛攻を1点に抑えた。得点を取れているのは今季の特徴を発揮できている点ではあるが、やはり課題は守備面。相手の決定力不足にも助けられたが、シュートを打たせてしまうシーンが多かっただけに対策が必要だ。「失点は課題だが、攻撃も積極的に仕掛けていきたい」(内山秀一監督)。

<出場停止>なし
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大		東海大	
3. 高木	10. 伊東	2. 太田代	
2. 柿崎	14. 芦野	37. 北原	
1. 松田	7. 長野	3. 小山	
		34. 羽毛	
16. 前田		11. 峯	29. 椎橋
5. 杉山	4. 向山	10. 廣瀬	
		13. 森田	5. 元田
18. 大王		14. 塩田	
8. 須郷		39. 小野	

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています*

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2013-NO.5

編集：五味亜矢子 印刷：関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



東国大の勢い止まらず4連勝!

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 2部リーグは、いよいよ東国大の勢いが増してきた。法大を4-0で撃破して唯一の4連勝を飾り、逆に法大は2010年の2部降格から3年目で初めて最下位に転落した。首位の東国大を追うのは関学大に2-0で快勝した駒大、そして朝鮮大を2-1で破った神大だ。どちらのチームも、東国大に敗れた1試合以外は安定した試合を見せている。4位の関学大に並ぶ位置に浮上してきたのが、拓大を2-0で破って2連勝を飾った東農大。そして、東学大を1-0で下し3試合ぶりの白星を挙げた青学大が6位に浮上、東学大は7位に順位を下げた。もう1試合は、平国大との3-2という競り合いを制した東海大が4試合目で今季初勝利を挙げた。

得点ランキング		アシストランキング	
4: 山本 大貴 (駒大)		3: 佐伯 拓磨 (東国大)	
3: 小玉 敏之 (東国大)		2: 高橋 明嗣 (東国大)	
小牟田洋佑 (駒大)		平野 篤志 (駒大)	
伊東 純也 (神大)		小牟田洋佑 (")	
高木 利弥 (")		長野 祐太 (神大)	
脇本 晃成 (東学大)		今野 順 (東農大)	
星子 直哉 (平国大)		恵 龍太郎 (青学大)	
		茶島 雄介 (東学大)	

今季は変則的な日程で、前半戦として第9節までが行われる。早くもその折り返し点となる第5節はゴールデンウィークのため第6節との連戦。良い形で乗り切るチームはどこだ!?

JR 東日本カップ 2013 第 87 回関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第4節終了時)

順位	2部	東国大	駒大	神大	関学大	東農大	青学大	東学大	拓大	東海大	平国大	朝鮮大	法大	勝数	負数	得点	失点	得失差	勝点
1	東国大		100	100	5/5	未定	未定	201	5/3	5/19	5/26	5/12	400	4	0	8	1	7	12
2	駒大	0●1		5/26	200	5/3	401	5/19	5/5	401	5/12	未定	未定	3	1	0	10	3	9
3	神大	0●1	東海大G		未定	301	5/6	未定	5/19	5/4	301	201	5/12	3	1	0	8	4	9
4	関学大	フクアリ	0●2	未定		0●3	5/3	5/25	未定	5/12	300	400	5/19	2	2	0	7	5	6
4	東農大	未定	保土ヶ谷	1●3	300		5/11	1●2	200	5/26	未定	5/19	5/5	2	2	0	7	5	6
6	青学大	未定	1●4	三ツ沢	味フィ西	たつこ		100	5/25	未定	5/19	1●2	401	2	2	0	7	7	6
7	東学大	1●2	朝鮮大G	未定	青学大G	201	0●1		5/11	201	5/5	5/3	未定	2	2	0	5	5	6
8	拓大	千葉東総	荻野	青学大G	未定	0●2	青学大G	味スタ西		未定	2●3	100	201	2	2	0	5	6	-1
9	東海大	東海大G	1●4	荻野	東海大G	東海大G	未定	1●2	未定		302	5/6	2●4	1	3	0	7	12	-5
10	平国大	朝鮮大G	法大G	1●3	0●3	未定	青学大G	たつこ	302	2●3		未定	5/3	1	3	0	6	11	-5
11	朝鮮大	東海大G	未定	1●2	0●4	朝鮮大G	201	江戸陸	0●1	たつこ	未定		5/26	1	3	0	3	8	-5
12	法大	0●4	未定	法大G	東海大G	たつこ	1●4	未定	1●2	402	保土ヶ谷	朝鮮大G		1	3	0	6	12	-6

体育会学生のための

リクナビ就職エージェント

戦いの中に、成長がある。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」
http://job.rikunabi.com/agent/athlete/info02/



関東学院大学 vs 青山学院大学

5月3日(金・祝)
11:30K.O.
味フィ西

2連勝のあと2連敗を喫してしまった関学大と、前節で連敗を止めた青学大との対戦。昨季は関学大の2勝だが、前節で久々に無失点勝利を飾った青学大の調子が上がってくるかどうか。

関学大は前節、駒大に0-2で敗れた。無失点での2連勝のあと連敗の2試合は無得点で、開幕直後の勢いがやや鈍っている。前節の駒大戦は、ロングボールで押し込まれながらも相手の裏を狙う組み立てからチャンスを見出したが、前半終了間際に自陣でのスローインを奪われゴールを許すという自滅に近い失点。駒大の前半のシュートはこれ1本だけであり、この失点で試合の流れを相手に与えてしまった。「前節(東農大戦)と同様、完全に崩された失点ではないが、勝負どころを知っているチームとの差が出た」と石村大監督。自分たちの目指す攻撃の形は見せていただけに、決定力を上げていきたい。

一方の青学大は、開幕戦勝利のあと2連敗を喫していたが、前節は東学大に1-0で競り勝ち連敗を止めた。結果的に後半ロスタイム突入直前の決勝点となったが、前半は中盤の潰し合いながら、後半は東学大に対してボール保持率で引けを取らない試合展開ただけに、ようやく奪った待望の先制点でもあった。宮崎純一監督が

「初出場のGK高橋(博昭・3年)や先発初出場のDF大野(成輝・2年)、ケガから復帰したMF木澤(純平・4年)が悪い流れを断ち切ってくれた」と話したように彼らが思い切りの良いプレーを見せ、DF大野は決勝点をマーク。また、途中出場のMF後藤拓斗(3年)のキープ力が生きた。今節も少ない失点で戦えるかどうか。
 <出場停止>なし / 3回警告: 萱沼優聖(関学大)
 <昨年の対戦>前期 / 関学大2-1青学大、後期 / 関学大2-1青学大

関学大		青学大	
32. 吉田	6. 木村	3. 早田	18. 関谷
4. 久保	13. 土館	16. 京谷	10. 木澤
11. 萱沼	10. 橋村	34. 角宮	6. 高山
1. 守山	7. 太田	40. 高橋	28. 伊藤
15. 廣瀬	8. 山本	4. 中村	22. 恵
5. 山口		32. 大野	

駒澤大学 vs 東京農業大学

5月3日(金・祝)
11:30K.O.
保土ヶ谷

3勝目を挙げて2位につける駒大と、2連敗のあと2連勝で同率4位に浮上した東農大との対戦。勝負強さが見えてきた駒大と、勢いの出てきた東農大の勝負の行方はいかに。

駒大は前節、関学大を2-0で破った。今季初黒星を喫した翌試合ただけに大きな勝利で、秋田浩一監督は「相手のほうが決定的なチャンスもあったしボールも動かしていた。粘っこくやれたのはよかった」と、結果が出たことにホッとした様子だった。その言葉通り、前半、ゲームの主導権を握っていたのは関学大であったが、終了間際の相手スローインをMF中村駿(2年)が奪ってそのままゴール。前半たった1本のシュートを先制点につなげた。後半はリードを奪った駒大が、持ち味であるロングボールからの組み立てで流れをつかみ、55分にFW山本大貴(4年)が追加点を決めた。この試合は少ないチャンスを確実にモノにしたが、「長いボールの精度を上げ、正確さを意識してほしい」(秋田監督)。

対する東農大は前節、拓大を2-0で破り、2試合連続無失点勝利を飾った。久々の2部リーグは連敗スタートだったが、これでチームとしても自信をつかんだに違いない。拓大戦は、「前の試合のような流れで、立ち上

がりに気をつけてリズムをつくれた」(木村俊夫コーチ)。立ち上がりは、攻撃はある程度割り切ってリスクを少なく相手の背後を狙い、セカンドボールを拾ってリズムをつかった。決定的なチャンスは決して多くはなかったが、ゴール前のこぼれ球、そして相手のバックパスを奪って得点につなげた。「慣れてきた部分もあるが、開幕のような緊張感を継続していきたい」(木村コーチ)。

<出場停止>なし
 <昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

駒大		東農大	
3. 田中	14. 中村	18. 今野	2. 大野
5. 伊藤	7. 碓井	15. 小田原	14. 石川
9. 小牟田	10. 山本	10. 浜田	30. 矢口
1. 大石	6. 若山	9. 相川	6. 中垣内
4. 平尾	23. 久永	11. 井上	5. 櫻岡
31. 鈴木		27. 加藤	

東京学芸大学 vs 朝鮮大学校

5月3日(金・祝)
11:30K.O.
江戸陸

連勝が止まった東学大と、3敗目を喫した朝鮮大との対戦。どちらも連敗は避けたい対戦だ。

青学大に0-1で敗れ、今季初めて無得点に終わった東学大。開幕戦で黒星を喫したあと、2連勝で白星を先行させたが、またも星を五分に戻してしまった。青学大戦では、前半こそ積極的な攻撃姿勢を見せていたものの、お互いにパスの起点を潰し合ってシュートまで持ち込めるシーンは少ない展開。後半に入ると相手の選手交代をきっかけにボールを持たれる時間が多くなり、ロスタイム直前の90分に1点を許した。「前半は決定機をつくれた流れの良い攻撃ができたが、決め切れなかった」(西園聡史監督)。後半は守備に奔走し、相手の攻撃を凌ぐのに精一杯となってしまった。朝鮮大は球際の強さがあるが、その前でも慌てず攻撃を組み立てられるかどうか。

その朝鮮大は、開幕2連敗のあと劇的な逆転勝利での上昇ムードを持ち込み神大と対戦したが、試合巧者の神大に1-2で敗れた。昨季1部のチームと互角の戦いを見せたが、やはり決定力の差が結果に出たと言える。前半に1点を先制されながら74分に追いついたが、その3分後にセットプレーから決勝点を奪われた。厳しいプレッシャーを与えてファールが多くなったことは課題だ

が、FKを数多く与えながら粘り強く守っていただけに、CKであっさり許してしまった決勝点が悔やまれる。「リードされたが、後半持ち直して追いついたのは良かった。自分たちのミスと与えてはいけないファールを修正したい」(金載東監督)。相手ボールを奪って攻撃につなげる形はだいぶ見られてきた。課題は、攻めた後の攻守の切り替えか。

<出場停止>なし / 3回警告: 慎鏞紀(朝鮮大)
 <昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東学大		朝鮮大	
5. 廣木	18. 久保	24. 鄭壯輝	12. 姜光
4. 脇本	7. 山崎	16. 韓勇俊	22. 慎鏞紀
15. 菅		21. 康貴成	
12. 須賀	10. 茶島	14. 朴利基	1. 李在根
2. 大里	9. 岡	9. 高尚人	3. 李教俊
8. 佐々木		17. 高志煌	2. 李永照
28. 吉田			

法政大学 vs 平成国際大学

5月3日(金・祝)
13:50K.O.
保土ヶ谷

開幕戦から同じ星取りを辿ってきた2チームの対戦。2部リーグ降格後、初めて最下位に転落してしまった法大と、攻撃の形はつくりながらなかなか勝利につながらない平国大との対戦は、決定力の勝負になりそうだ。

前節、初対戦の東国大に0-4と完敗した法大。シュート数も6-14、中盤での競り合いでことごとく後手を踏み、結果的にも内容的にも相手のワンサイドゲームとなってしまった。「プレーの積極性がない。もっと“戦う”ということをしなければいけない」(大石和孝監督)。相手の出足の速さに戸惑い、ボールを失うと一斉に襲いかかってくる東国大の攻撃を止めることができず、前後半とも2点ずつ失った。後半には追い上げを図るべく攻撃を仕掛け、ビッグチャンスもつくりはしたが、個人技での打開には限界も。前々からエンジンのかかりが遅いという課題はあったが、危機感がおられる序盤戦となってしまう。巻き返しを図ることができるのか。

対する平国大も、2戦目で今季初勝利を挙げたあと2連敗となっている。前節は東海大に対して攻撃面では主導権を握りながら、2-3で競り負けた。特に前半は、リズムの良いパスワークからチャンスをつくり出して優位な試合展開となっていたが、その中で与えたFKとPK

でまさかの2失点を喫してしまった。後半は猛攻を仕掛け、50分に1点を返したが、攻め合いとなった際にはどうしても守備が薄くなり、57分に喫した3点目が決勝点となった。この試合に関して、西川誠太監督は「試合内容というより選手の意識の部分で残念だと感じた」と話した。今節はプライドのぶつかり合いとなりそうだ。
 <出場停止>なし
 <昨年の対戦>前期 / 法大4-1平国大、後期 / 法大1-4平国大

法大		平国大	
23. 三田	3. 岡	11. 千葉	13. 竹内
27. 田代	9. 深町	37. 小松崎	5. 鎌田
6. 星		42. 四辻	1. 小池
21. 田村	28. 西室	18. 星子	6. 本田
13. 木村	14. 松本		2. 須藤
8. 大野		32. 堀越	16. 増田
17. 森保			